

令和7年度第1回 県立病院経営委員会 議事概要

1 日 時 令和7年6月4日（水）17:00～18:30

2 場 所 新潟県自治会館別館9階 ゆきつばき

3 出席委員 別紙「出席者名簿」のとおり

4 主な意見等

議題（1）令和6年度病院事業会計決算について

議題（2）収支改善に向けた今後の取組の方向性について

議題（3）新潟県立病院経営強化プランにおける経営指標の取扱いについて

①経営的な視点からの意見

- ・ 県立病院の給料は、私の認識だと民間病院よりは高いのではと考えている。もちろん業務内容によって違うことは当然だと思うが、元々民間よりも給料が高い前提があるのであれば、今この危機的な状況で、人事院勧告で民間が上がったから上げるという発想がそもそも適当なのかどうか。民間企業で給料を10億円上げて倒産した会社はまずない。給料は上げない、もしくは削減を検討するのが一般的な流れであって、さらに上げるという考え方には違和感がある。
- ・ こういった緊急事態のときに人事委員会勧告を1年先送りにした例がある。独立行政法人の病院では、人事委員会の勧告は受けずに、ベースアップ評価料分のみを上げるという対処をした病院もある。もう少し他県や独法の事例を見て検討してはどうか。
- ・ 費用と収益それぞれの対応策を考えるのではなく、費用をどう収益に結びつけていくのかということが大事。費用と収益をどう繋ぐかということをもっと真剣に考えてほしい。
- ・ 今の赤字は構造的な問題。今までのデフレを受けて物が上がらない時代からインフレ基調となり、診療報酬はどの病院も少しずつ増えている。自治体病院は全部そうだが、それ以上に莫大な経費がかかっている。この状況を我々が乗り切るためには、診療報酬がこのインフレ基調に追いついてくれないと何とかならないと思う。
- ・ DPCの病院はリハビリと手術料がほぼ出来高となっているが、例えば病院局では理学療法士1人の1日の単位数を把握されているか。1日18単位、1週間に108単位、1日の最大としては24単位取ることができ、1人雇って月60、70万ぐらいの稼ぎとなる。それに対してPT、OTの数が少ない。そういうところにお金をつぎ込むべきであって、取れていない加算なども含めてその指導を病院局がすべきではないか。

②機能・規模の見直しについての意見

- ・ 病院局が進めている機能規模の適正化に関して、病院局と福祉保健部で他の病院と地域に必要な医療をしっかりと提供できるような調整をやっていかなければならない。地域医療構想を進めている中で、今来ている患者さんと病床の機能がずれてしまっていることについて病院局とも情報共有しながらしっかりやっていく。

③経営の底上げについての意見

- ・ 正規職員や夜勤をできる人を募集してもなかなか就職に結びつかないため、2交代制だけでなく、働く曜日を自由に選べるなど、働く者にとって働きやすい勤務方法を作り、看護職のw e l l - b e i n gを支えていかないと県立に残って働きたいという方がどんどん少なくなるのではないかと。
- ・ 専門看護師や認定看護師が増えてきていると思うが、麻酔科などの医師を支えることや看護師の質を上げていくためには、特定行為研修の受講を推進していくことが必要。さらに、医師と対話ができる看護師を育成することは、収益にも繋がるのではないかと。

④経営強化プランについて

- ・ 委員から異論はなかった。